

高城B遺跡の発掘調査 (高浜町)



▲土坑内から
土器がかた
まって出土



▲土坑出土の
須恵器高杯



◀調査区全景



◀調査区の
北側には
大きな溝



▲発掘調査で出土した須恵器

高城B遺跡は、平成6年(1994年)に高城遺跡西方で発見され、平成7(1995年)年～8年(1996年)の道路拡幅に伴う発掘調査(第1次)によって、縄文時代から近世に至る遺構が調査地全域に分布していることが判明しました。現在では昭和町・朝日町・高城町・高浜町に広がっています。今回の調査は共同住宅の建築に先立ち、令和4年(2022年)2月から3月にかけて行いました。調査では、遺物包含層から弥生土器、古墳時代の土師器・須恵器、

平安時代の黒色土器などが出土しました。遺構面では、調査区中央を南北方向に延びる溝跡と、その東側に掘立柱建物と考えられる柱穴が並んでいました。これらはその方位から、平安時代初期の遺構と考えられます。また、北側には第1次調査で発見された大型の溝が北東から南西に向かって真っ直ぐに延びていた他、西側では古墳時代中期の土師器・須恵器を含む大型の土坑を検出しました。

(田中充徳)

文化財保護の取り組み

埋蔵文化財の調査

吹田市内には現在 156 か所の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）が確認されています。遺跡で土木工事が行われると地下にある遺跡が破壊される可能性があるため、遺跡に影響があると判断される工事では発掘調査・試掘調査を、遺跡に影響を与えないと予測される工事では立会を行っています。

令和 3 年度（2021 年度）は、発掘調査 30 件、試掘調査 3 件、立会 74 件を実施しました。

文化財の保存・管理・公開・活用

－文化財保存事業補助金の交付－

令和 3 年度（2021 年度）は市指定無形民俗文化財 1 件、地域無形民俗文化財 3 件の保存事業に補助金を交付しました。

－文化財の管理・公開－

国史跡七尾瓦窯跡・吉志部瓦窯跡、府史跡吉志部瓦窯跡（工房跡）、吹田 34 号須恵器

窯跡および雉子礫碑、住宅 2 件を管理しており、一般公開しています。

－文化財の普及・啓発－

文化財の啓発資料の作成・頒布、市内の遺跡・文化財所在地への文化財説明板の設置等を行っています。令和 3 年度（2021 年度）は、吉志部古墳（岸部北 4 丁目紫金山公園内）に説明板を設置し、六地藏道標（南高浜町）の説明板を修繕しました。また、平成 14 年度（2002 年度）に実施した榎坂遺跡第 6 次発掘調査の成果報告として、『榎坂遺跡発掘調査報告書Ⅰ

－榎坂遺跡第 6 次発掘調査－遺物編』を刊行しました。（猪股文京）



ペーパークラフトで歴史を学ぼう 10

吹田市立博物館では平成 19 年（2007 年）以来、市民等を対象に文化財に親しんでいただくためにオリジナルのペーパークラフトを作成しています。これまで 34 作品を制作しました。今回はこれらの内、NO.32～34 の 3 作品を紹介します。なお、NO.1～31 のペーパークラフトは吹田市立博物館のホームページで型紙等を公開しています。

（西本安秀）



NO.32 旧西尾家住宅茶室積翠庵Ⅱ

博物館だより NO.88 で紹介しました旧西尾家住宅の茶室積翠庵ペーパークラフトを外観だけでなく、内部までも作りこんだ作品です。



NO.33 佐井寺くりぬき水路

江戸時代に佐井寺村の余水を釈迦ヶ池に引き込むため、途中の丘陵部をくりぬいて造られた水路です。現在は埋められてみることはできませんが、これまでの調査で確認された入口付近の状況を再現したものです。

NO.34 旧中西家住宅主屋

博物館だより NO.57 で紹介しました旧中西家住宅長屋門ペーパークラフトの続編で、主屋（母屋棟、玄関棟、離れ座敷）を再現しています。



重要文化財・旧西尾家住宅 (吹田文化創造交流館) の 大規模修繕を進めています

旧西尾家住宅は、吹田文化創造交流館として平成17年(2005年)10月に開館しました。

平成21年(2009年)12月には国の重要文化財に指定され、令和元年(2019年)9月には外塀(鉄筋コンクリート塀)が追加指定されました。

同住宅は江戸時代後期から大正時代にかけて建築されたものであり、年々老朽化が進んでいます。この貴重な財産を次世代に引き継いでいくため、令和2年度(2020年度)から国庫補助事業として大規模修繕に取り組んでいます。

令和2年度(2020年度)から令和3年度(2021年度)にかけては、外塀(鉄筋コンクリート塀)の保存修理工事を実施しました。令和4年度(2022年度)からは建物本体の保存修理工事に着手しています。I期工事として主屋等の保存修理工事を令和8年度(2026年度)にかけて実施します。工事期間中も観覧は実施していきますが、観覧者の安全確保のため観覧範囲を制限していますので、市ホームページで事前にご確認をお願いします。

令和5年度(2023年度)は工事期間中でないと見ることで建物の内部の骨組みなどをご覧いただけるような工事見学会も予定しています。皆様のご参加をお待ちしています。
(柿本卓志)



▲解体が進む旧西尾家住宅

令和4年度 旧中西家住宅 秋の特別公開を開催

令和4年(2022年)11月22日(火)から30日(水)にかけて旧中西家住宅(吹田吉志部文人墨客迎賓館)で、恒例の「秋の特別公開」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年も定員を通常の半数である15名までとし、マスク着用やアルコール消毒等の対策を講じながら実施いたしました。期間中の入場者数は8日間で218名でした。

毎年、開催期間の紅葉の状態が気になるのですが、今年も22日の初日の時点で庭園内は七分程度の紅葉、そして会期が進むにつれ紅く染まって行くというとてもいいコンディションで実施できました。

特別公開では普段の見学の際には公開していない茶室「喜雨庵」や離れ座敷の内部をご覧いただいておりますが、今年も離れ座敷に実際に上がっていただき、江戸時代の襖絵や掛軸・お茶道具類などを間近で見学していただきました。

旧中西家住宅では特別公開期間中以外も通年、見学を受け入れています(事前予約制)。

四季折々に装いを変える庭園の見学などお気軽にお出掛けください。ご予約をお待ちしております。

(旧中西家住宅館長・松本仲雄)



▲紅葉に彩られた旧中西家住宅の庭園

垂水南遺跡の発掘調査（垂水町3丁目）



▲堤防基底部の敷葉工法(第1面)



▲河道と堤防の胴木(第1面)



▲河道から出土した墨書土器「田中庄」(第2面)

垂水南遺跡は、垂水町2丁目・3丁目・江坂町1丁目一带に広がる、弥生時代から中世にかけての遺跡です。令和3年（2021年）9～11月にかけて発掘調査を行い、その結果、古墳時代から平安時代にわたる4面の遺構面を検出し、土器や木製品など多くの遺物が出土しました。

第1面では、平安時代前期（9世紀）の河道と堤防を検出しました。河道は北東から南西方向に流れ、幅11.5m以上、深さ90cm分を検出しました。

堤防は南北方向よりやや東に振った角度で築かれており、全長5.8m以上、幅2.9m以上分を検出しました。堤防の盛土は失われていましたが、基底部に「敷葉工法」と呼ばれる木の枝葉が敷き詰められていました。これは盛土が地滑りを起こさないために施された工夫です。

また堤防の沈下を防ぐための土台「胴木」が据えられていました。まず横木を並べ、これに直交させるように胴木を置き、横木と胴木がズレないように両者の交点に杭を打ち込んで固定していました。胴木の一つは全長5.6mで、両端にホゾ穴が残ることから建築部材の転用と思われます。また胴木を固定する杭は全長2.7m、直径30cm以上もあり、断面は正円に近いほど丁寧に加工して、先端は円錐状に尖らせていました。通常、胴木は軟弱地盤に石垣を築く際に用いられますが、土造りの堤防に用いる事例は珍しく、大変手の込んだ工事を行っていました。このことから当時の人々にとって、いかに治水工事が大事だったかがうかがわれます。

第2面では、奈良時代（8世紀）の河道と建物跡を検出しました。河道は東から西に向かって流れ、幅9.2m以上、深さ1.3m分を検出しました。この河道から、奈良時代の土師器や須恵器など多くの遺物が出土しました。

この中には墨で土器に文字を書いた墨書土器、墨でヒトの顔の絵を描いた墨書人面土器、馬を象った土製品「土馬」などが出土しました。墨書土器の中には莊園名を意味すると思われる「田中庄」の他、「祝家」、「庵」、「卅」などの文字が書かれていました。この種の遺物は通常、川の跡から出土する事例が多く見られますが、今回の調査でも河道中から出土しました。墨書土器や土馬は呪術的な意味合いが強いとされており、当時の人々が河畔で何かを祈願してこれらを川に流した「水辺の祭祀」を行った跡と思われます。なお土馬の出土は、当市では榎坂遺跡（江坂町）に次いで2例目となります。

掘立柱建物は南北に棟を向けており、柱間は南北3間（5.08m）×東西2間（3.56m）で、切妻屋根を持つ平地式建物と考えられます。

第3面と第4面では、ヒトや動物の足跡群、水田区画と思われる杭列、一時的に大雨や洪水などで水が大量に流れた際の流路を検出しました。この流路や遺構面を覆う土層から、古墳時代後期（6世紀後半）から一部飛鳥時代（7世紀前半）にかけての須恵器や土師器などの土器類の他、杵、木錘、キヌタ（叩き棒）、船形木製品、櫛などの木製品、鎌の刃などの鉄製品など、多くの生活用具が出土しました。

（堀口健二）



▲河道から出土した土馬(第2面)



▲掘立柱建物(第2面)



▲木製の杵(第3面)

宮之前遺跡B地点の発掘調査（内本町3丁目）

宮之前遺跡B地点は、内本町3丁目に位置する遺跡です。令和4年（2022年）1～2月にかけて、百丈山大雄院の境内で発掘調査を行いました。その結果、中世から近世に至る2面の遺構面を検出し、土器類など多くの遺物が出土しました。



▲礎石建物（第1面）

第1面は、調査区の南端で江戸時代の礎石建物2棟を検出しました。1棟は東西5間以上×南北2間以上、もう1棟は東西1間以上×南北1間以上の規模です。柱間は約95cmで、礎石は花崗岩（白御影石）と閃緑岩（青御影石）を使用していました。柱穴から江戸時代後期の陶磁器や瓦が出土しました。これらは大雄院に付属する建物であったと見られます。

第2面では、溝、土坑、井戸などの中世の遺構を検出しました。溝は現在の大雄院本堂を取り囲むかのように、「コ」字形に巡るように掘られていました。この溝は一度掘り直されており、古い方は鎌倉時代（13世紀）、新しい方が室町時代初め（14世紀）でした。これは現在の大雄院に先立つ建物を区画する溝の可能性が



▲第2面全景

あります。溝内からは瀬戸美濃焼花入れなどの優品が出土し、その他の個所からは青銅製風鐸や鉄製茶釜の蓋など一般の住居とは異なる高級品が出土しました。



▲墓とみられる土坑（第2面）

土坑は地面に縦穴を掘り、完形の白磁碗、瓦器碗、逆さまに伏せた土鍋、刀子が底に置かれたような状態で出土しました。人骨は出土しませんでした。このような形状は墓の可能性がありますが、特に中国宋からの舶載品である白磁碗を副葬している点から、財力のある者が葬られたと考えられます。

（堀口健二）

浜の堂遺跡の発掘調査 (元町)

浜の堂遺跡は吹田市元町で平成7年(1995年)に工事実施時の立会の際に中世の遺物が出土したことにより発見された遺跡です。本格的な発掘調査は、平成28年(2016年)に実施された第1次調査で、常光圓滿寺関連の堀跡と思われる中世～近世の大きな落込みが確認され、多量の中世土器、瓦等が出土する成果があり、当遺跡は中世～近世の集落遺跡、寺院跡と考えられています。

今回の調査は元町において住宅建築工事に伴う事前調査として、令和4年(2022年)2月に実施したもので、通算2回目の調査です。



▲調査区全景(北から)

当調査区の現地表下約0.8～1.1mで黄灰色砂層(地山)が認められ、これをベースに溝、井戸、落込み等の遺構が認められました。このうち溝は東西方向のもので幅約0.8m、深さ約0.3mを測り、中の堆積土から中世の土師器皿、瓦器椀、瓦等が多量に出土しました。井戸は近・現代に攪乱を受けていますが、深さ約1.2mを測り、下部には底に穴をあけた羽釜をすえて、上部に曲物か桶などの木枠を置いて井戸の土留の

枠材としていました。中世のものと考えられます。落込みは近世のものが2か所認められました。



▲中世井戸検出状況(西から)

出土遺物は遺構、遺物包含層等で認められ、その内容は、平安時代の遺物(瓦、石鍋)、中世の遺物(土師器皿・甕・羽釜、須恵器こね鉢・甕、瓦器椀、白磁、瓦、砥石)、近世の遺物(瓦、陶器、磁器、土師器、土人形、寛永通寶)等が確認されました。



▲中世井戸出土羽釜

以上のとおり、今回の調査では主に中世の遺構・遺物が確認され、当地に浜の堂遺跡の中世の集落跡や寺跡などが展開するものと考えられます。

(西本安秀)

特別企画「むかしのくらしと学校」展

●● イベントの案内 ●●

◆子供体験講座◆

「手づくりおひなさま」

日時／令和5年2月5日（日）
午後1時30分～3時30分
講師／エコおもちゃ作り市民塾の皆さん
内容／和紙・木材等を使って作ります。
場所／講座室
定員／15名
対象／小学生以上
申込／1月24日（火）必着

◆親子体験講座◆

「大昔のアクセサリー～^{まがたま}勾玉づくり～」

日時／令和5年2月11日（土・祝）
午前の部 10時～12時
午後の部 1時30分～3時30分
講師／博物館学芸員・博物館ボランティア
内容／ろう石を削ったり、磨いたりして、大むかしのアクセサリーまが玉を作ります。
場所／講座室
定員／午前、午後の部とも各30名
対象／小学生・中学生・保護者
申込／1月31日（火）必着

◆子供体験講座◆

「ミニチュア銅鏡づくり」

日時／令和5年2月18日（土）
午前の部 10時～11時30分
午後の部 1時30分～3時
講師／博物館学芸員・博物館ボランティア
内容／五反島遺跡出土の銅鏡の3分の1ミニチュアをつくりまします。
場所／講座室
定員／午前、午後の部とも各10名
対象／小学3年生～中学生
（小学生の場合は保護者同伴）
申込／2月7日（火）必着

◆子供体験講座◆

「手作りおもちゃ教室」

日時／令和5年2月26日（日）
午前の部 10時～12時
午後の部 1時30分～3時30分
講師／心ふれあいSA吹田おもちゃ部会の皆さん
内容／昔の遊び道具と牛乳パックや身の回りにある材料を使っておもちゃ作りをします。
場所／講座室
定員／午前、午後の部とも各20名
対象／5歳～中学生
申込／2月14日（火）必着

◆親子体験講座◆

「昔は草木で染めたんだあー草木染め体験」^{くさぎぞ たいけん}

日時／令和5年3月4日（土）
午後2時～4時
講師／博物館ボランティア
場所／講座室
定員／20名
対象／小学生・中学生・保護者
申込／2月21日（火）必着

◆親子体験講座◆

「昔のあかりと火おこし体験」

日時／令和5年3月5日（日）
午前の部 10時～12時
午後の部 1時30分～3時30分
講師／博物館ボランティア・博物館学芸員
内容／ろうそく、行灯、石油ランプなど、昔のあかりを学習し、火打ち石やまいざり等の火おこしを体験します。
場所／講座室（火おこしは屋外）
定員／午前、午後の部とも各20名
対象／小学生・中学生・保護者
申込／2月21日（火）必着

◆親子体験講座◆

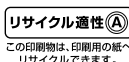
「エコキャンドルづくり」

日時／令和5年3月12日（日）
午後2時～3時30分
講師／アジェンダ21すいたの皆さん
場所／講座室
定員／30名
対象／小学生・保護者
申込／2月28日（火）必着

■■ 申込方法 ■■

はがきかFAXに、講座名、希望の時間帯、参加者全員（付き添い含む）の名前（ふりがな）、郵便番号、住所、学年、電話番号を書いて博物館まで。吹田市役所ホームページの電子申込システムからも応募できます。申込多数の場合は抽選。
※新型コロナウイルス感染拡大防止のために展示やイベントが中止になることもあります。最新情報は博物館公式ホームページでご確認ください。

吹田市立博物館だより第92号 令和4年（2022年）12月28日発行 発行：吹田市立博物館
〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号 TEL 06（6338）5500 FAX 06（6338）9886 ホームページ <http://www2.suita.ed.jp/hak/>



この冊子は2,500部作成し、1部あたりの単価は35.2円です。